

事例研究報告

特別支援学校中学部生徒の 自立した学習活動のための指導

児童・生徒の実態

- 中学部生徒。自閉症。
- 昭和の歌謡曲やオペラなど、音楽に興味がある。
- 集団活動が苦手。小さい子どもが苦手。
- 言語でのやりとりよりも、記述でのやりとりの方が確実である。
- パートスケジュールや時間割表を見て、活動内容が分かる。
- 活動を始めるには時計の提示や声かけが必要なことが多い。
- 「する」「しない」や要求の意思表示ができる。
- 気持ちを言語表現することは難しい。
- 苦手なことがあると活動が滞る。

保護者の願い

(将来)・周りの人と上手にコミュニケーションをとりながら働く

(現在)・毎日意欲的に学校に登校する

教員の願い

- 1) 集団活動への参加を増やす
 - ・あそびの道具を自教室に借りに行くことができる
 - ・帰りの会を自教室ですることができる
- 2) 身辺処理の自立と自立した学習活動を増やす

アドバイザーからの助言

将来の就労のためには、

- ①人の指示が聞けること
- ②長時間の作業ができること
- ③好子の確立

が大切であると助言を受けた。

助言を受けての見直し

指導目標を

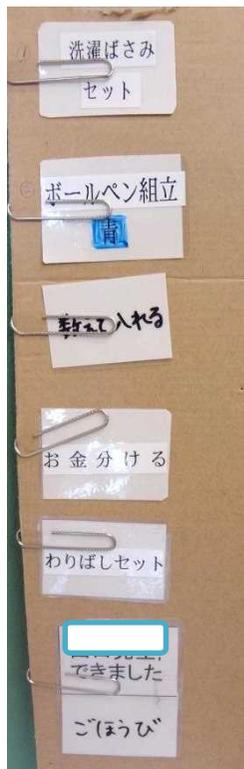
『自立課題を学習室で15分間行うことができる』
と設定した。

同時に

『好子』についても工夫していくこととした。

指導の手続き

- 1) 『自立課題を学習室で15分間行うことができる』ために。
 - ①ワークシステムの確立
 - ②課題内容はプットインや簡単な組み立て, 分別等を設定。
量を増やすことで時間を延ばした。



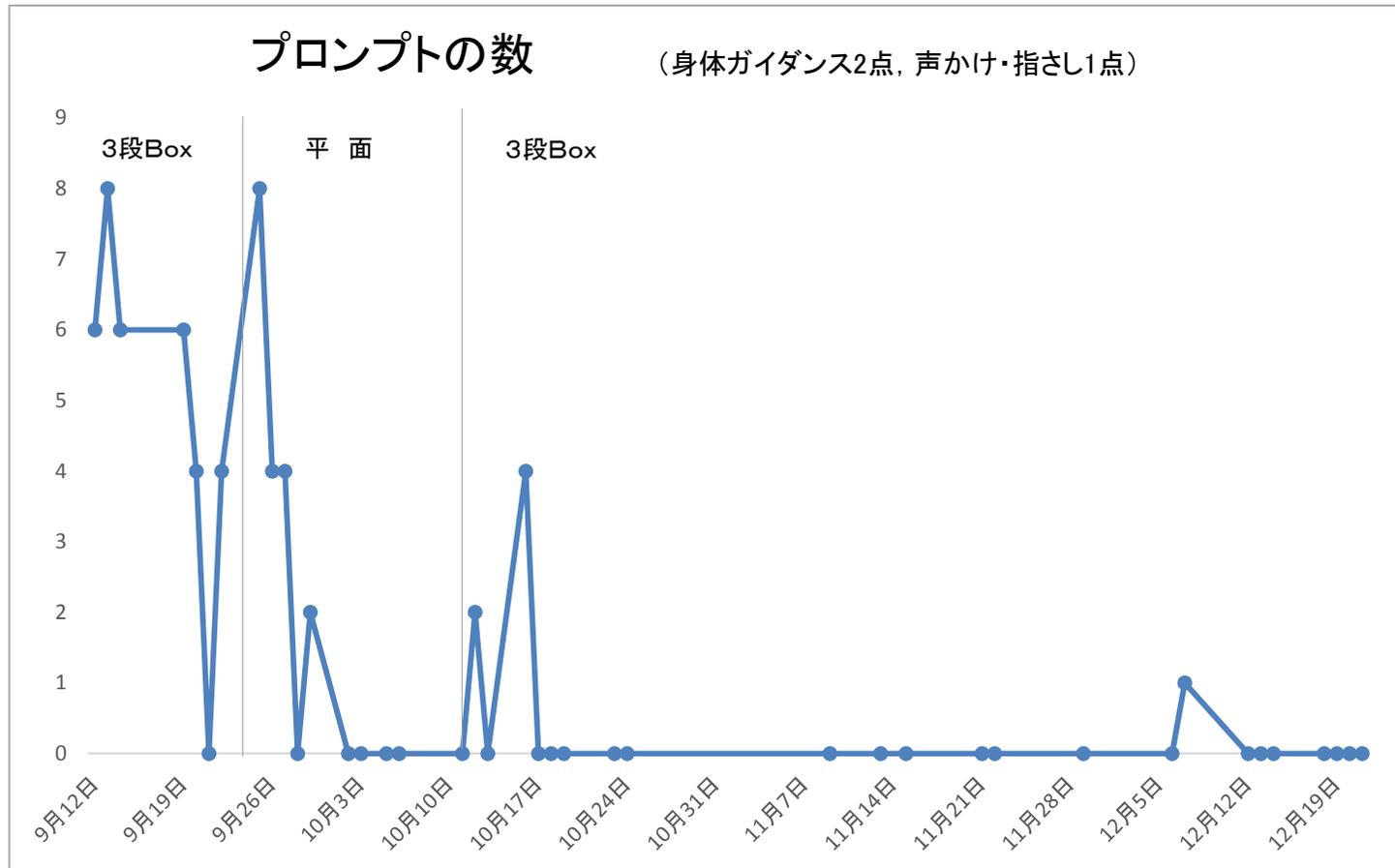
指導の手続き

2) 好子の工夫

- ① 毎日5個ぐらいの選択肢を設定
- ② 家庭に協力を依頼

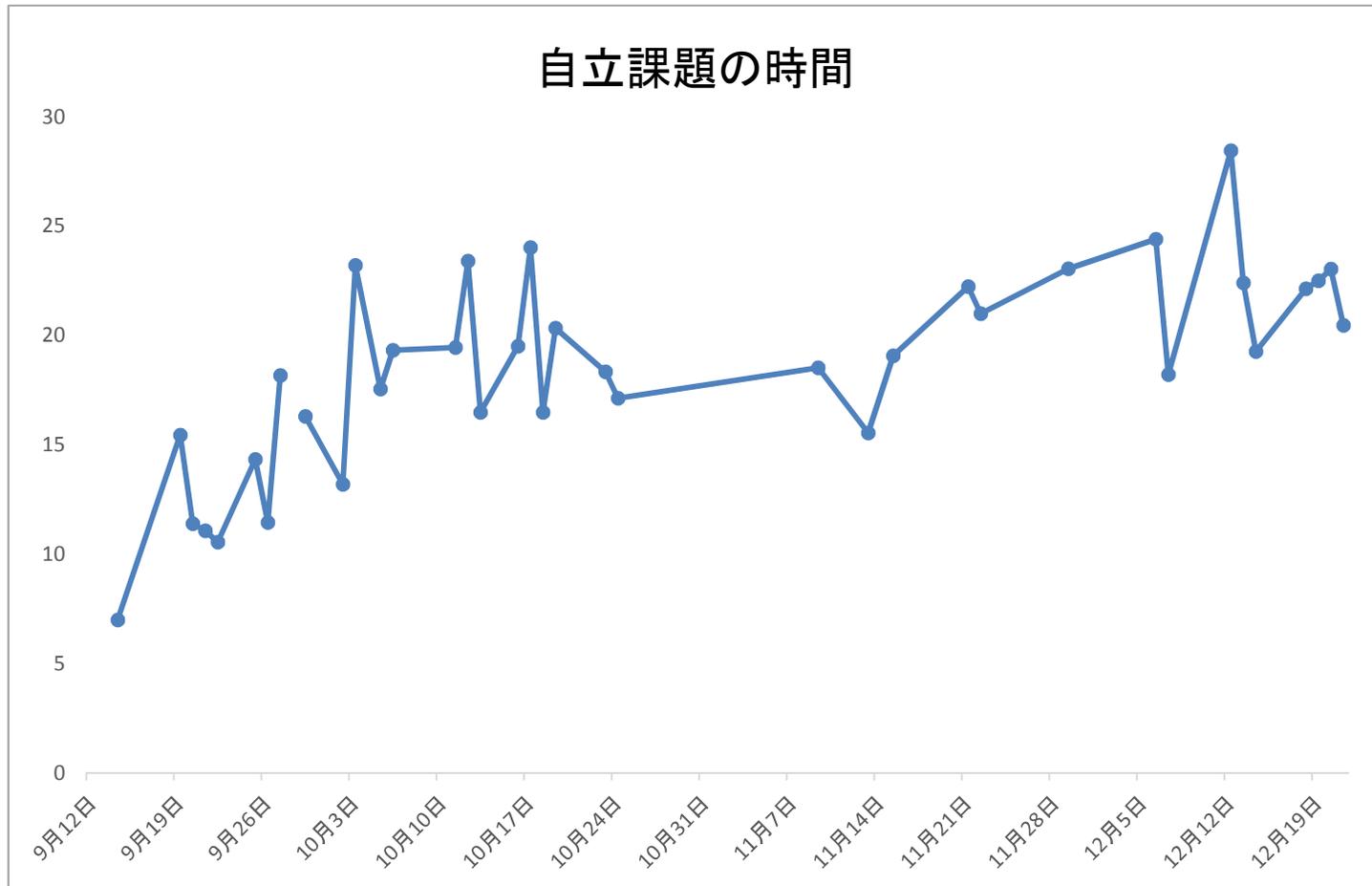


自立課題の記録より



(10/13~11/13まで6組やホールで実施)

自立課題の記録より



(10/13～11/13まで6組やホールで実施)

自立課題の記録より

好子の例と選択数

- ・風船動画(18)
 - ・iPad(11)
 - ・ボールあそび
 - ・歌の本
 - ・バス動画(7)
 - ・歌詞カード(3)
 - ・風船あそび
 - ・地図の本
- 等

指導の成果

- ・『自立課題を学習室で15分間行うことができる』という指導目標を達成することができた。登校が不安定な現在でも、集中して取り組むことができている。
- ・自立課題を始める前に、「ごほうびは？」と尋ねてくることがある。好子を期待していると考えられる。
- ・自立課題ができるに伴い、他の場面でもワークシステムを活用して、自立した活動ができた。